

1 教科に関する調査の結果・分析

(1) 平均正答率の状況

<小学校>

平均正答率	国語 A		国語 B		算数 A		算数 B	
実施年度	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
三重県	60.3	69.6	46.7	52.5	75.8	76.2	55.3	56.0
全 国	62.7	72.9	49.4	55.5	77.2	78.1	58.4	58.2
全国の平均正答率との差	-2.4	-3.3	-2.7	-3.0	-1.4	-1.9	-3.1	-2.2
								
全国の平均正答率以上の学校数	132 校 (34.0%)	105 校 (27.9%)	118 校 (30.4%)	119 校 (31.6%)	158 校 (40.7%)	143 校 (37.9%)	115 校 (29.6%)	139 校 (36.9%)
								

※ () 内は、平成 25 年度実施校 388 校、平成 26 年度実施校 377 校に占める割合を示す。

<中学校>

平均正答率	国語 A		国語 B		数学 A		数学 B	
実施年度	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
三重県	75.0	78.0	65.8	49.0	63.2	67.1	39.3	58.3
全 国	76.4	79.4	67.4	51.0	63.7	67.4	41.5	59.8
全国の平均正答率との差	-1.4	-1.4	-1.6	-2.0	-0.5	-0.3	-2.2	-1.5
								
全国の平均正答率以上の学校数	61 校 (37.4%)	59 校 (37.1%)	64 校 (39.3%)	55 校 (34.6%)	80 校 (49.1%)	76 校 (47.8%)	59 校 (36.2%)	65 校 (40.9%)
								

※ () 内は、平成 25 年度実施校 163 校、平成 26 年度実施校 159 校に占める割合を示す。

本年度の平均正答率は、昨年度に引き続き、全ての教科において全国の平均正答率を下回っており、小学校国語 A・B、小学校算数 A、中学校国語 B において全国の平均正答率との差がさらに開いている状況にあります。

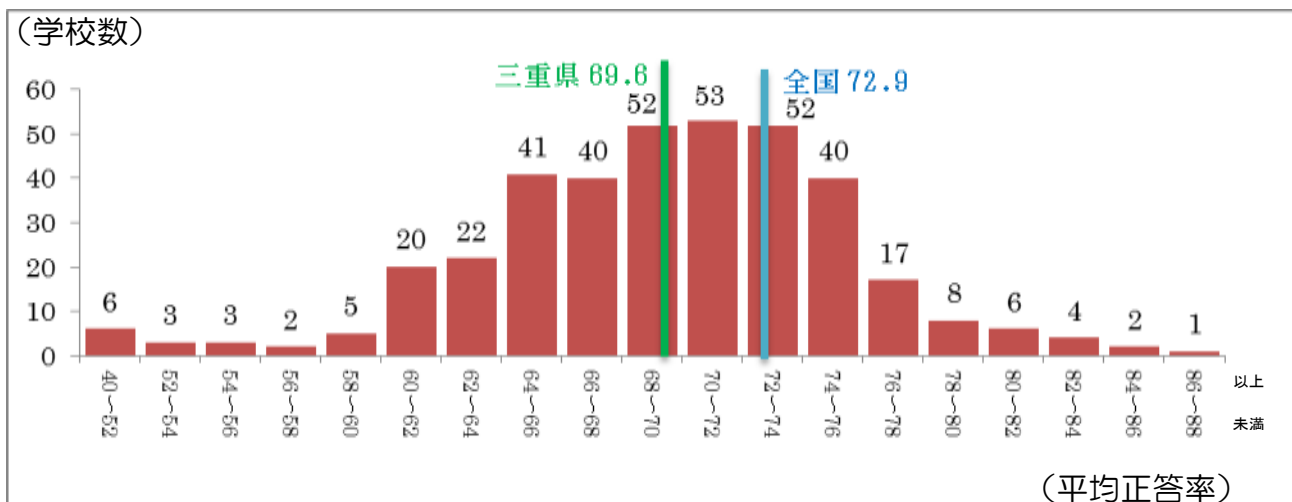
※ A 問題とは、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題

B 問題とは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

（２）平均正答率の分布状況

<小学校>

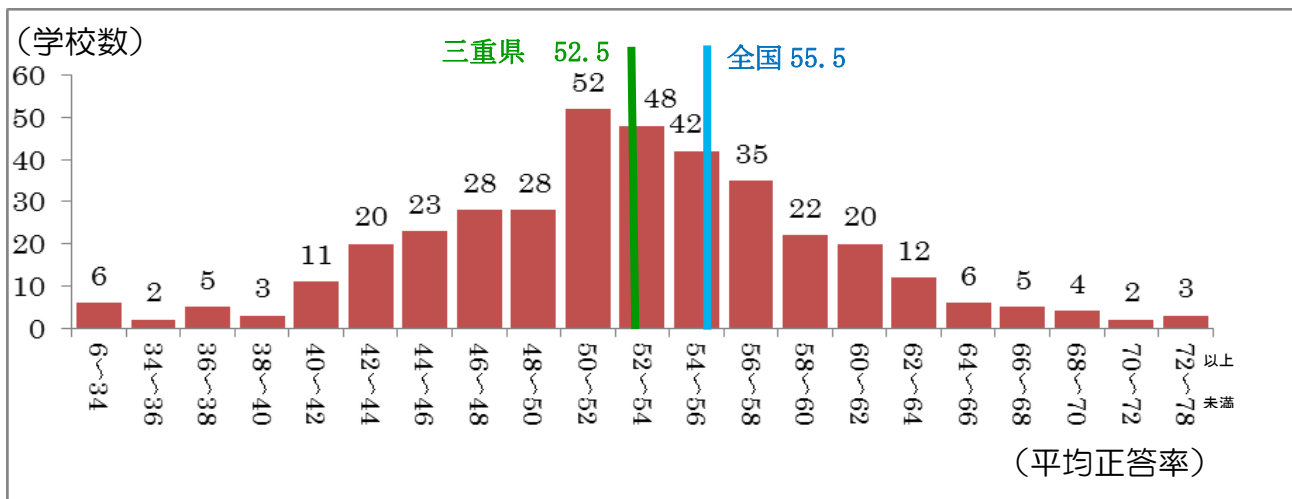
[小学校・国語Ａ]



全国の平均正答率 72.9 %未満の学校は 272 校（全体の 72.1 %）で、7 割を超えており、全国の平均正答率以上の学校は 105 校（全体の 27.9 %）に留まっています。

小学校及び中学校における教科に関する調査の中で、全国の平均正答率以上の学校数の割合が最も低くなっています。

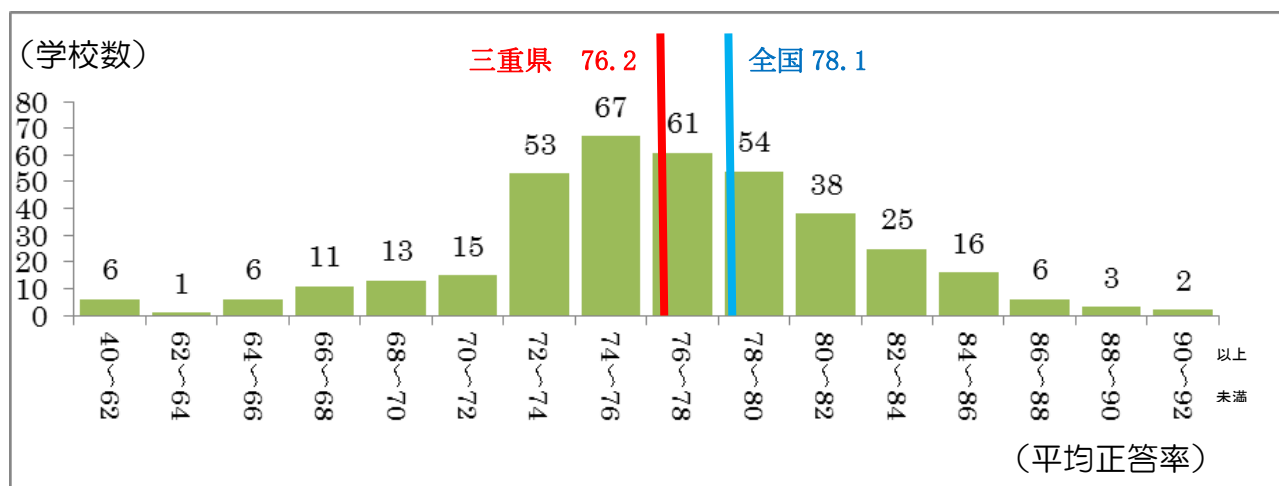
[小学校・国語Ｂ]



全国の平均正答率 55.5 %未満の学校は 258 校（全体の 68.4 %）で、6 割を大きく超えており、全国の平均正答率以上の学校は 119 校（全体の 31.6 %）に留まっています。

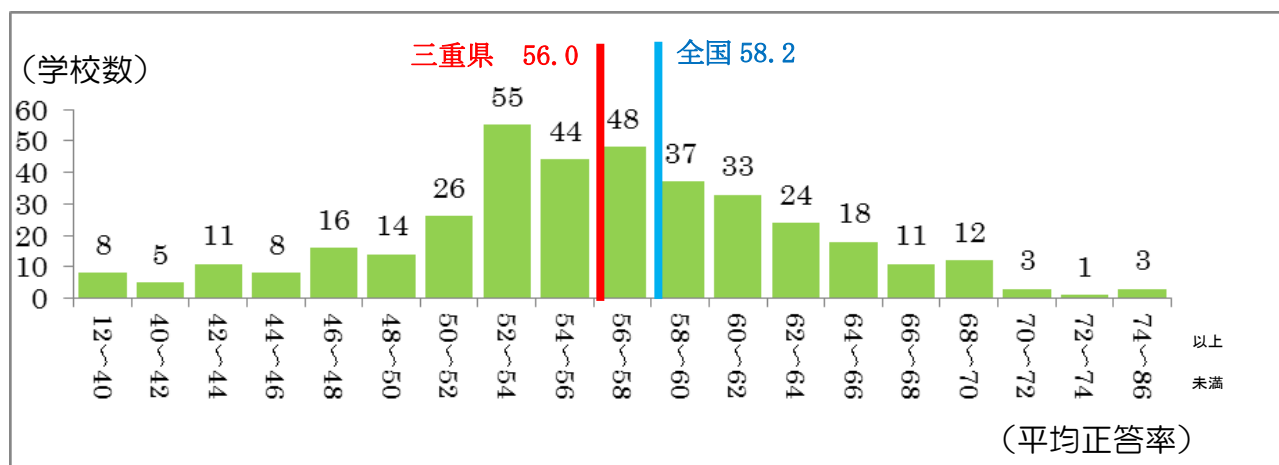
小学校における教科に関する調査の中では、平均正答率の分布の幅が広がっています。

[小学校・算数A]



全国の平均正答率 78.1%未満の学校は 234 校（全体の 62.1%）で、6割を超えており、全国の平均正答率以上の学校は 143 校（全体の 37.9%）に留まっています。

[小学校・算数B]

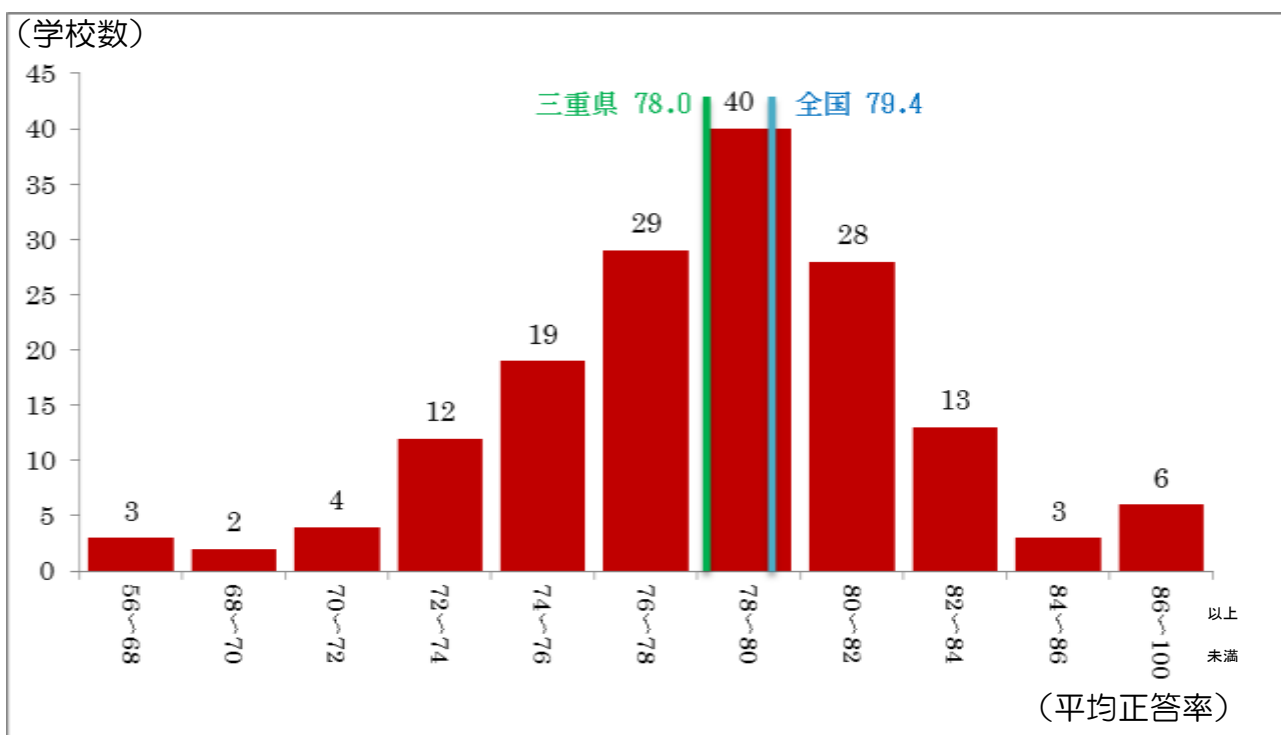


全国の平均正答率 58.2%未満の学校は 238 校（全体の 63.1%）で、6割を超えており、全国の平均正答率以上の学校は 139 校（全体の 36.9%）に留まっています。

小学校国語Bと同様に、平均正答率の分布の幅が広がっています。

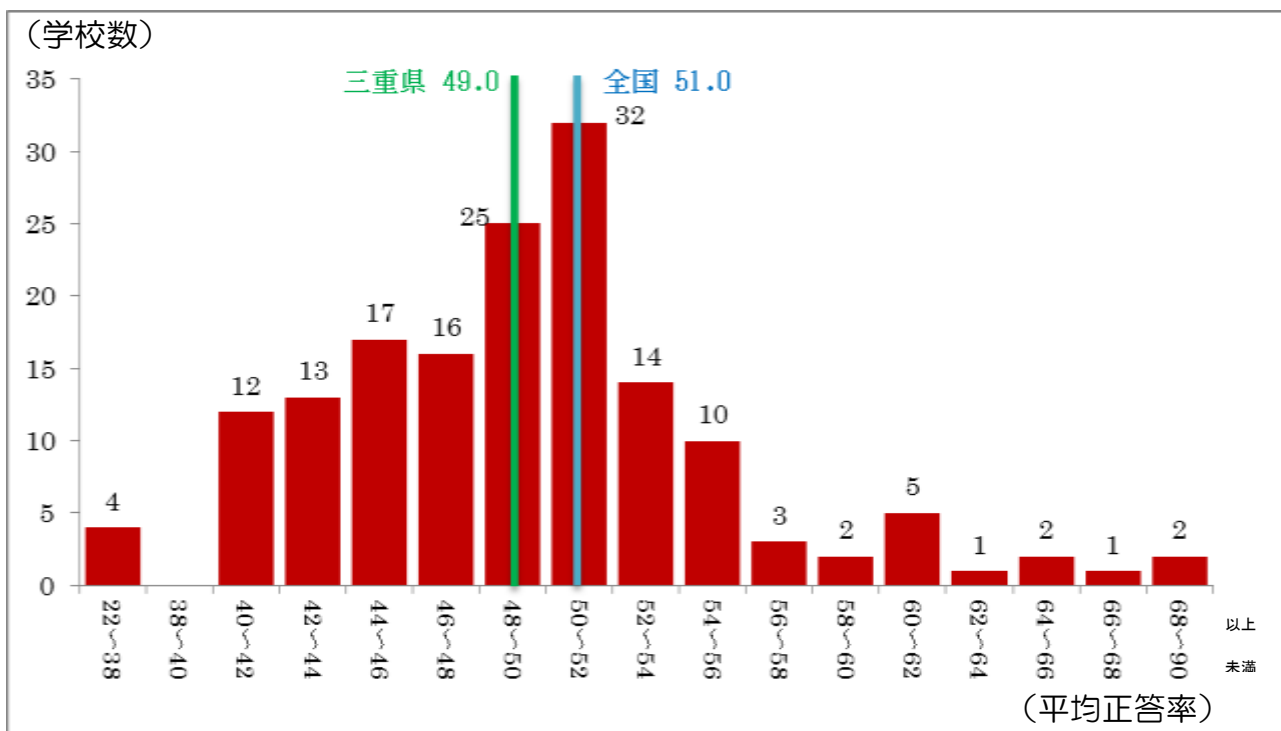
<中学校>

[中学校・国語A]



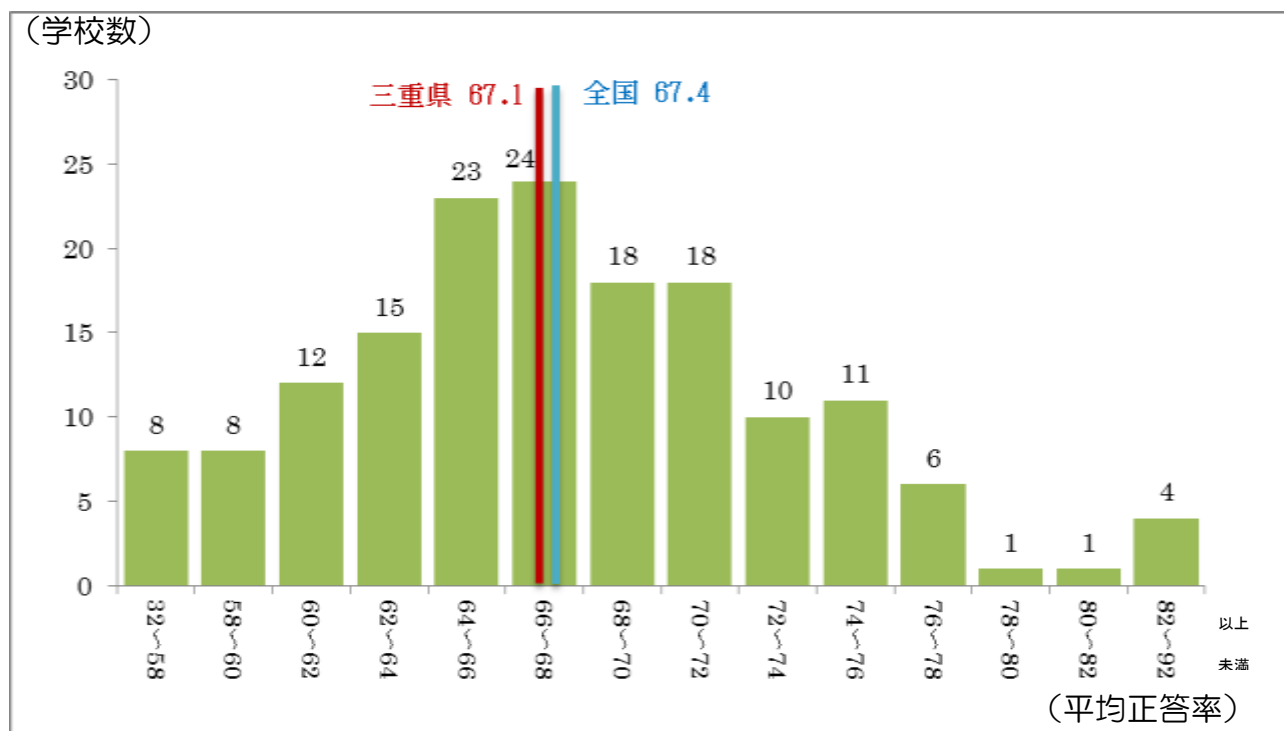
全国の平均正答率79.4%未満の学校は100校（全体の62.9%）で、6割を超えており、全国の平均正答率以上の学校は59校（全体の37.1%）に留まっています。

[中学校・国語B]



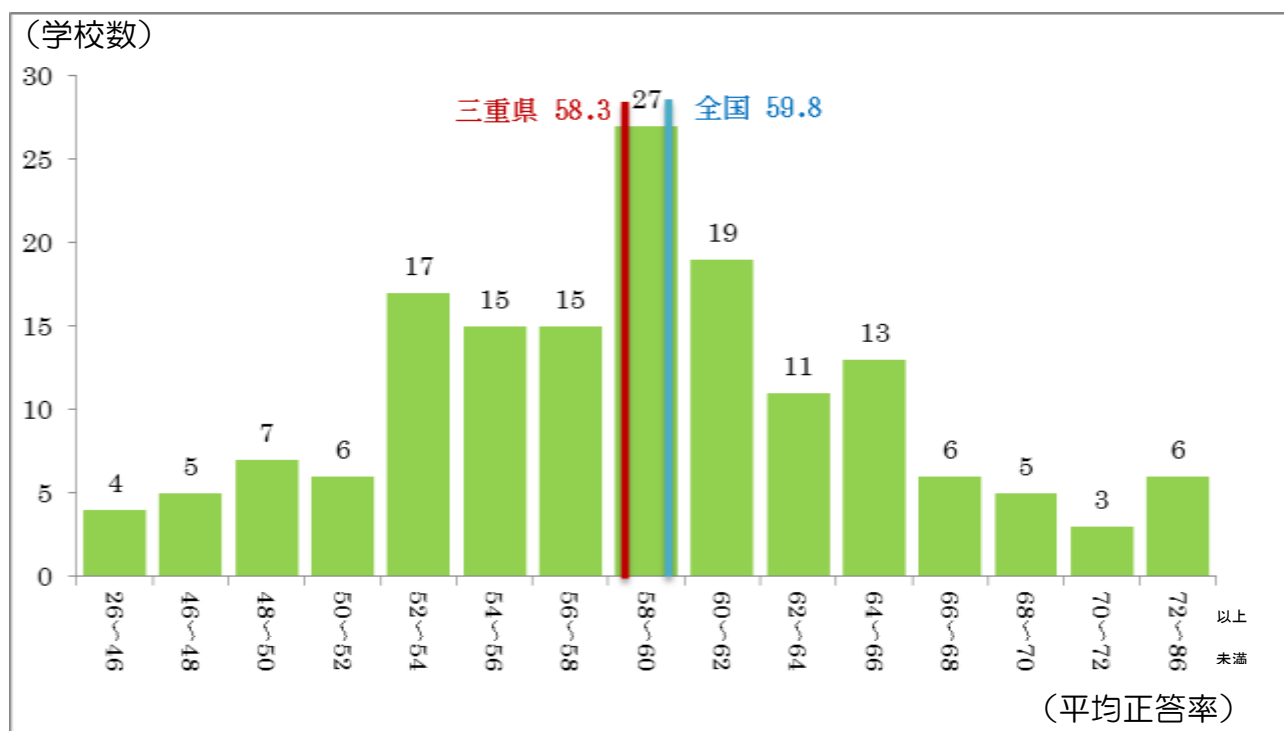
全国の平均正答率51.0%未満の学校は104校（全体の65.4%）で、6割を超えており、中学校における教科に関する調査では最も学校数の割合が高くなっています。全国の平均正答率以上の学校は55校（全体の34.6%）に留まっています。

[中学校・数学A]



全国の平均正答率67.4%未満の学校は83校（全体の52.2%）、全国の平均正答率以上の学校は76校（全体の47.8%）でほぼ同程度となっており、小中学校を通じて、全国の平均正答率以上の学校数の割合が最も高くなっています。

[中学校・数学B]

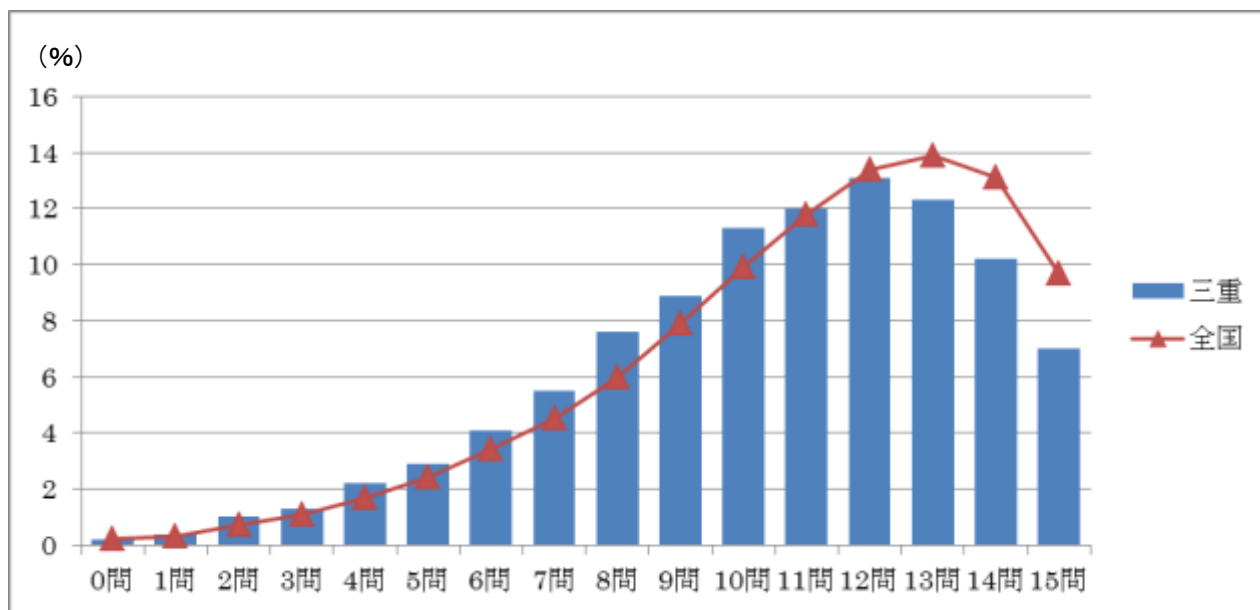


全国の平均正答率59.8%未満の学校は94校（全体の59.1%）で6割近くになっており、全国の平均正答率以上の学校は65校（全体の40.9%）に留まっています。

(3) 正答数の分布状況

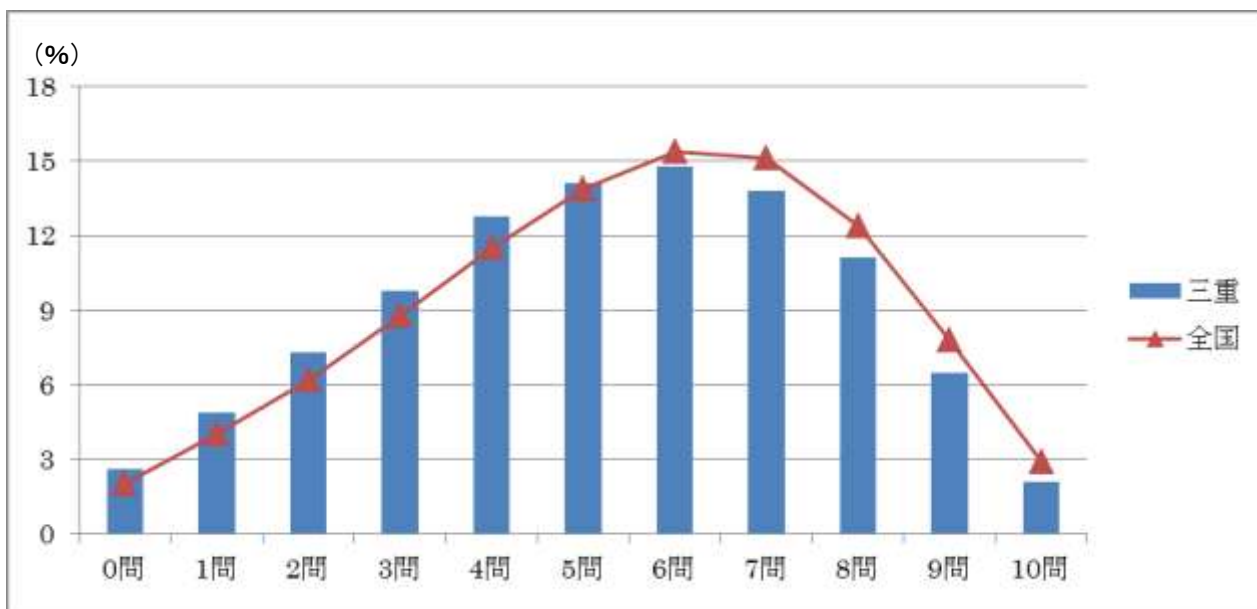
<小学校>

[小学校・国語A]



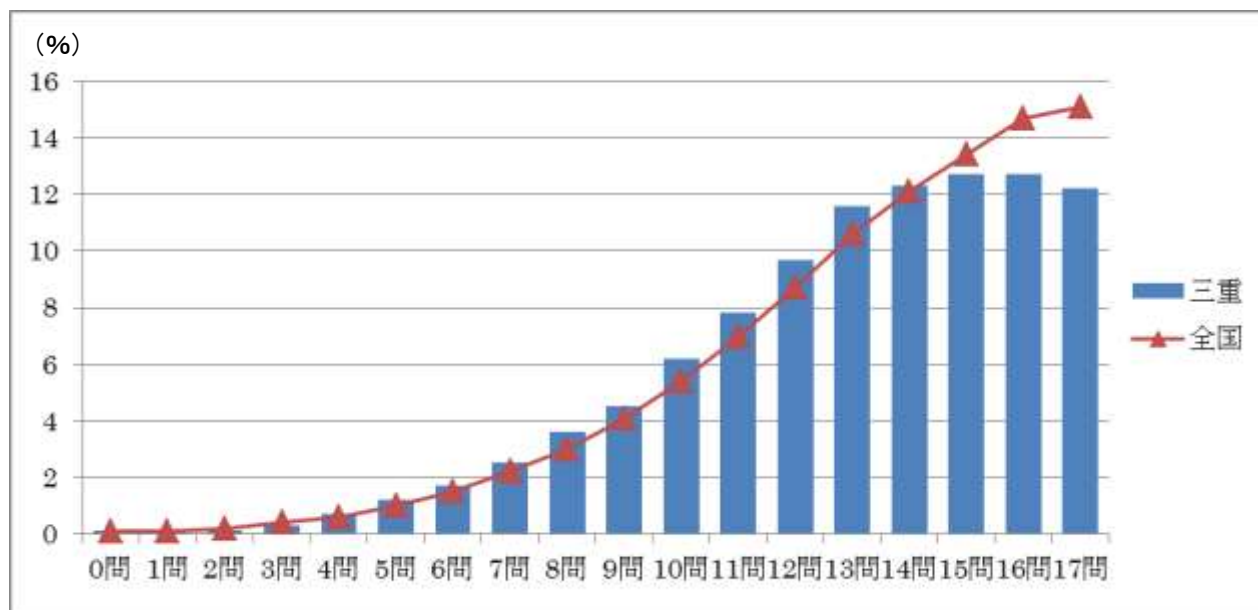
正答数が11問以下である割合が全国に比べて高く、13問以上である割合は全国に比べて低く、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

[小学校・国語B]



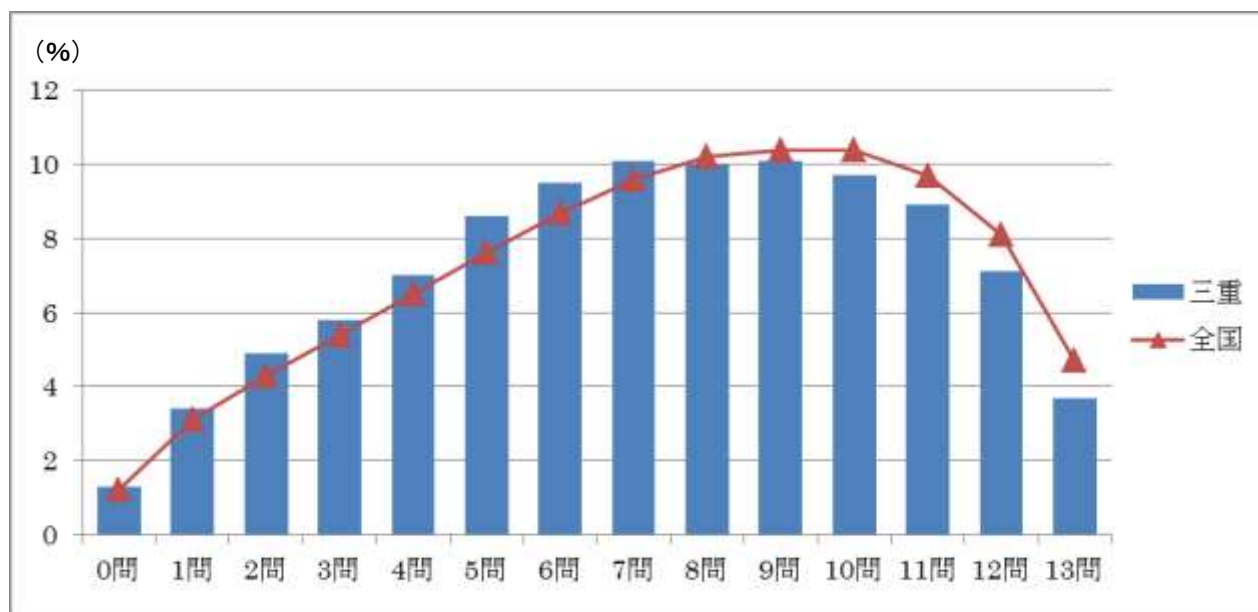
正答数が5問以下である割合が全国に比べて高く、6問以上である割合は全国に比べて低く、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

[小学校・算数A]



正答数が4問から14問までの割合が全国に比べて高く、15問以上である割合は全国に比べて低く、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

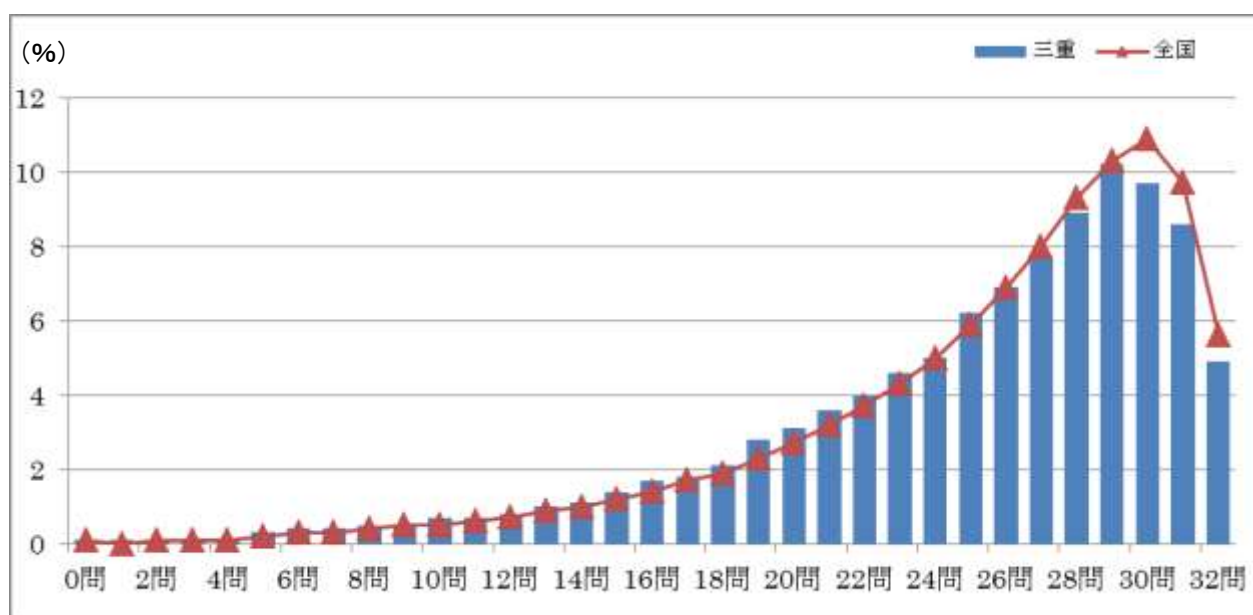
[小学校・算数B]



正答数が7問以下である割合が全国に比べて高く、8問以上である割合は全国に比べて低く、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

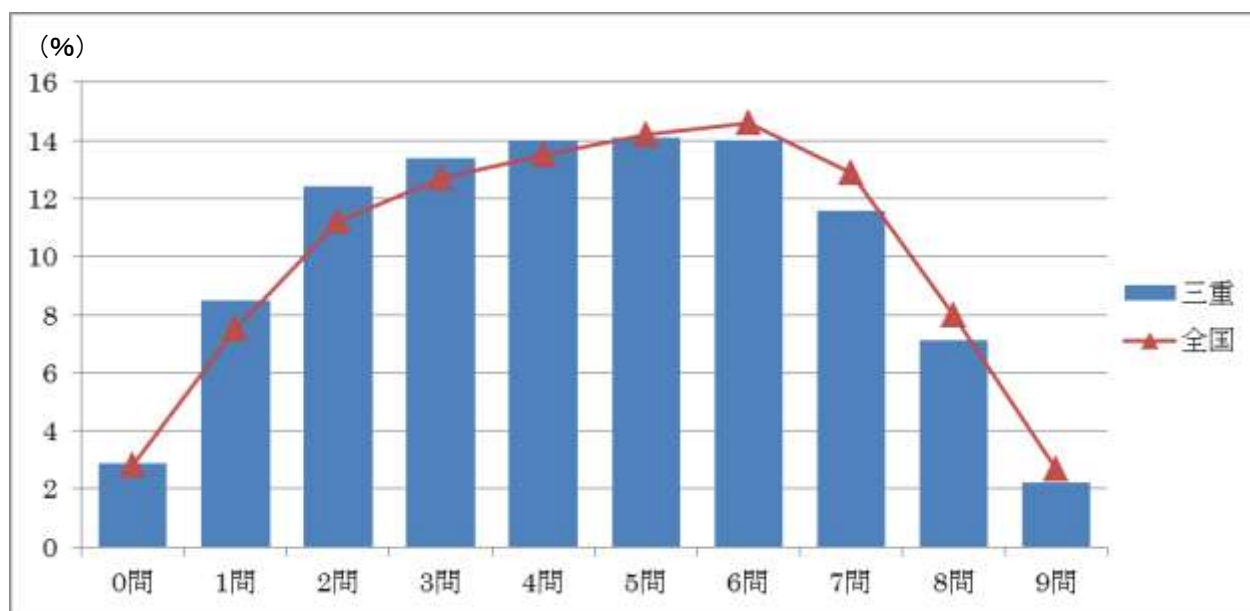
<中学校>

[中学校・国語A]



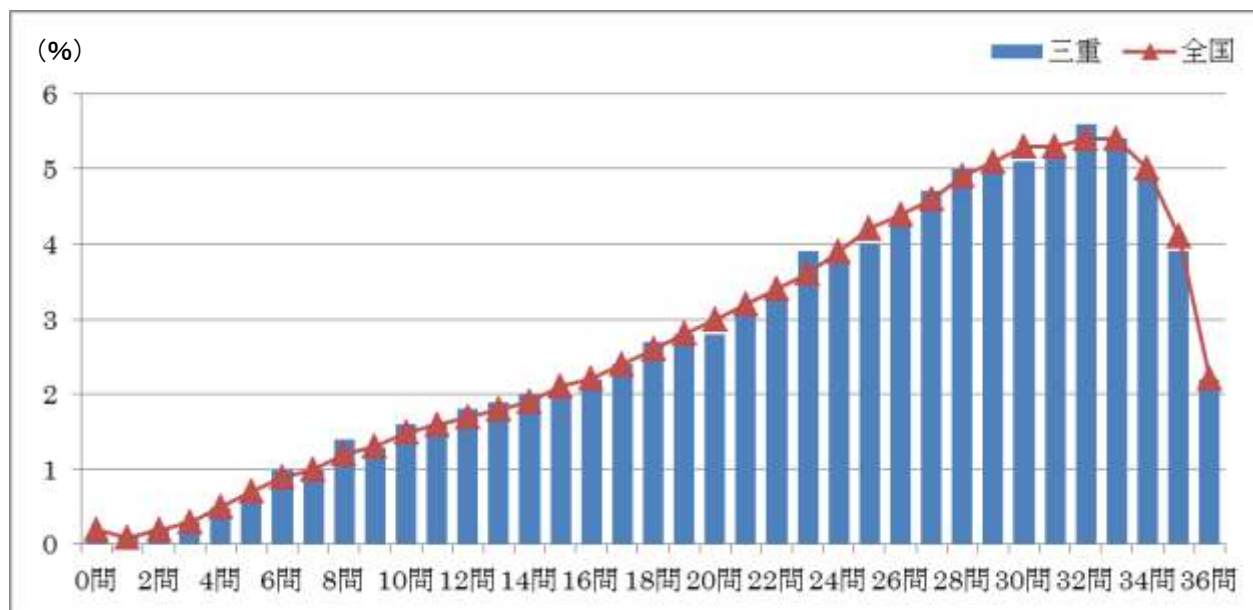
正答数が13問以下である割合は全国とほとんど変わらず割合も1%以下ですが、14問から25問までである割合は全国に比べて高く、27問以上である割合は全国に比べて低く分布している状況にあります。

[中学校・国語B]



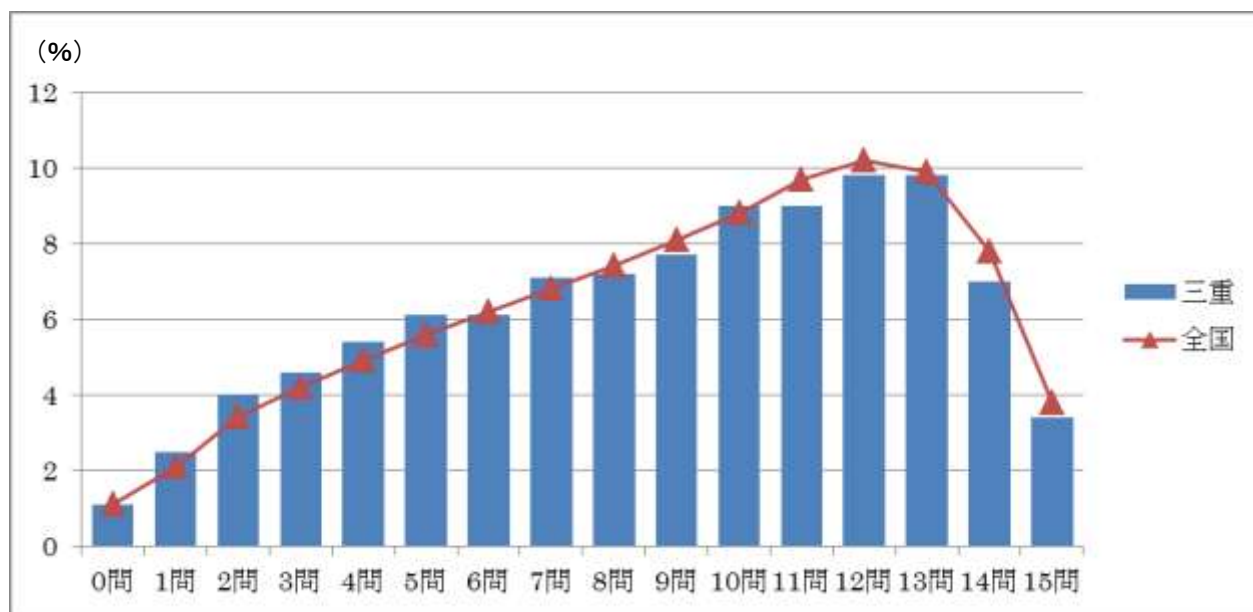
正答数が4問以下である割合が全国に比べて高く、5問以上である割合は全国に比べて低く、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

[中学校・数学A]



ほとんど全国の分布状況と同じ状況にあります。若干、20問以上の正答数の割合では全国に比べて低く分布している状況にあります。

[中学校・数学B]

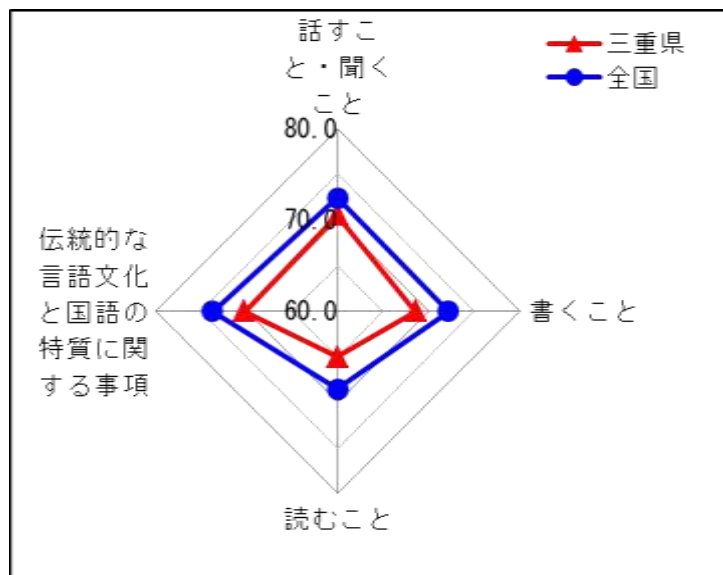


正答数が7問以下である割合が全国に比べて高い傾向にあり、8問以上である割合は全国に比べて低い傾向にあり、全体的に全国より正答数が低いところに分布している状況にあります。

(4) 領域別平均正答率の状況

<小学校>

[小学校・国語A]



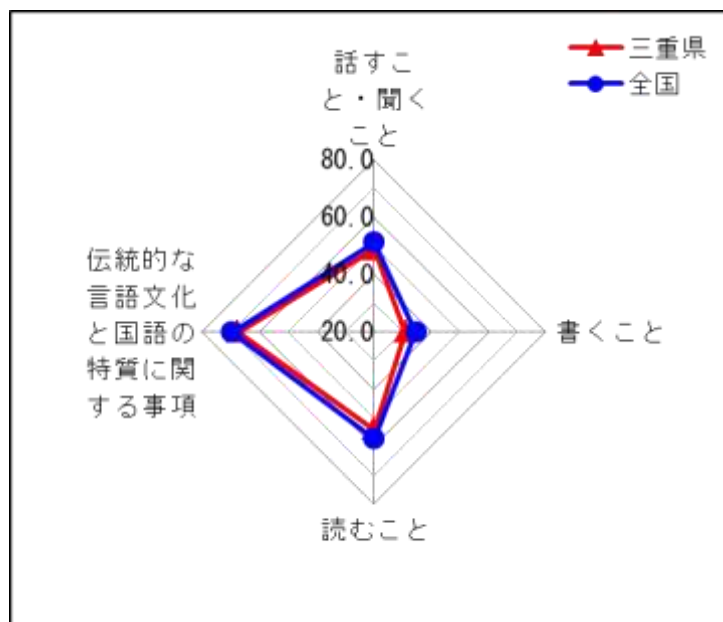
平均正答率	三重県	全国
全体	69.6	72.9
話すこと・聞くこと	70.5	72.4
書くこと	68.6	72.2
読むこと	65.0	68.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.2	73.7

すべての領域で全国状況より低く、特に、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で低い状況にあります。

【考察】

故事成語の意味や使い方を正しく理解し、用いることに課題があるため、実生活の中で意図的に使用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが大切です。

[小学校・国語B]



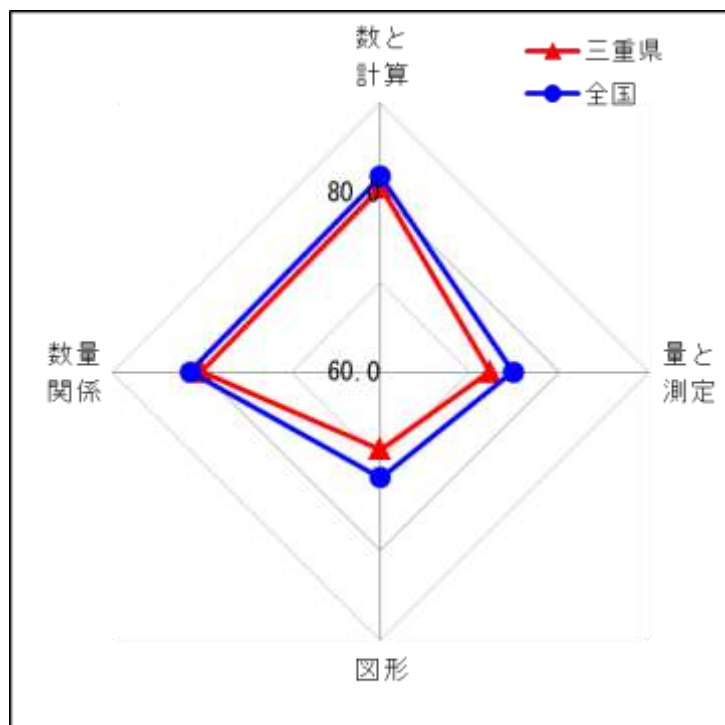
平均正答率	三重県	全国
全体	52.5	55.5
話すこと・聞くこと	48.9	51.2
書くこと	31.0	34.4
読むこと	54.1	57.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.6	69.8

すべての領域で全国状況より低く、特に、「書くこと」「読むこと」の領域で低い状況にあります。

【考察】

目的に応じて、事実と感想、意見などの関係を整理して書いたり、読んだりすることに課題があるため、必要な情報を取り出し、情報を整理する指導の充実を図ることが大切です。

[小学校・算数A]



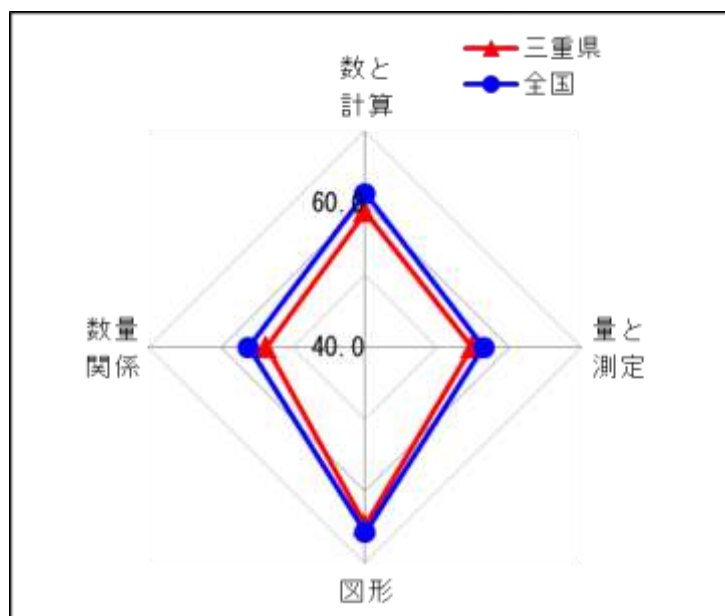
平均正答率	三重県	全国
全体	76.2	78.1
数と計算	80.6	81.8
量と測定	72.2	74.8
図形	68.7	71.8
数量関係	80.0	81.3

すべての領域で全国の状態より低く、特に、「図形」の領域で低い状況にあります。

【考察】

数量や図形の意味や性質を正しく理解することに課題があるため、様々な具体物を用いた作業的・体験的な活動を通して学習することが大切です。

[小学校・算数B]



平均正答率	三重県	全国
全体	56.0	58.2
数と計算	58.7	61.3
量と測定	54.9	56.5
図形	64.7	65.7
数量関係	53.7	56.2

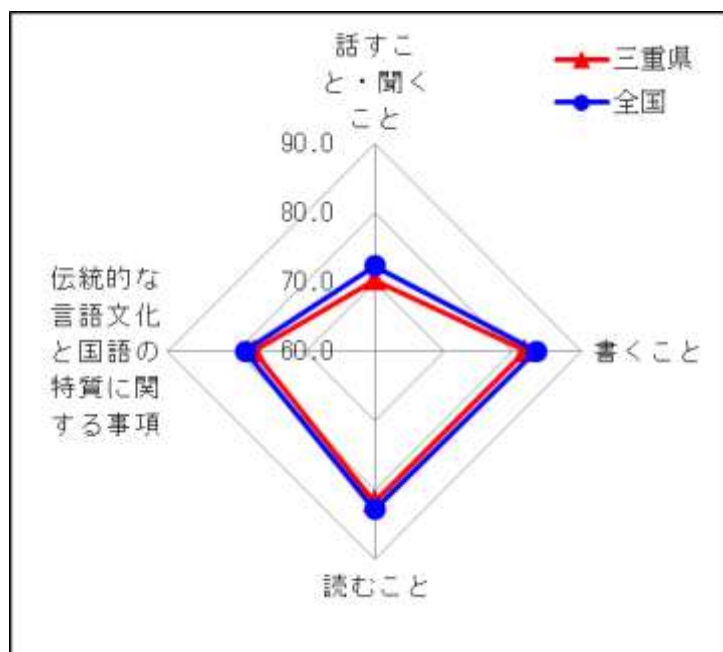
すべての領域で全国より低い状況にあります。

【考察】

筋道を立てて考え表現することに課題があるため、自分の考えを言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れることが大切です。

<中学校>

[中学校・国語A]



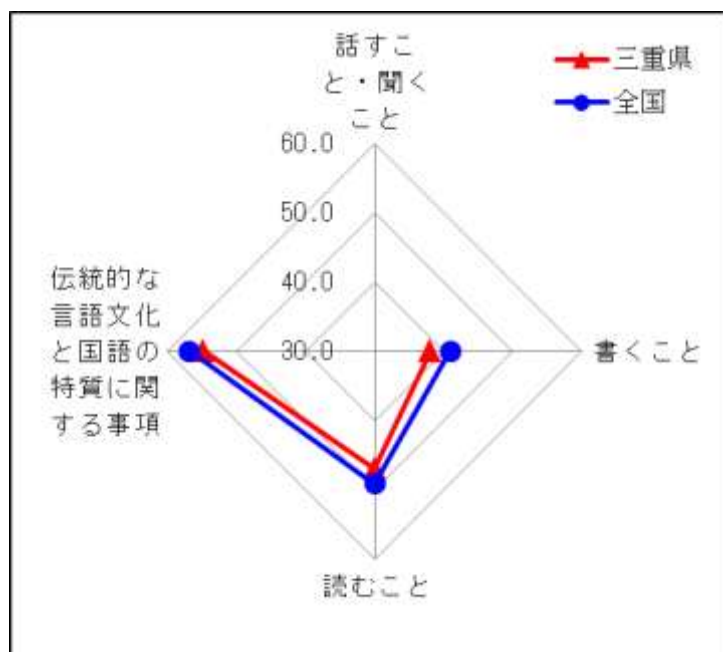
平均正答率	三重県	全国
全体	78.0	79.4
話すこと・聞くこと	70.3	72.3
書くこと	81.8	83.4
読むこと	81.8	82.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	78.7

すべての領域で全国より低い状況にあるものの、ほぼ同程度となっています。

【考察】

漢字やことわざの意味を正しく理解し、適切に用いることに課題があるため、実生活の中で意図的に使用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが大切です。

[中学校・国語B]



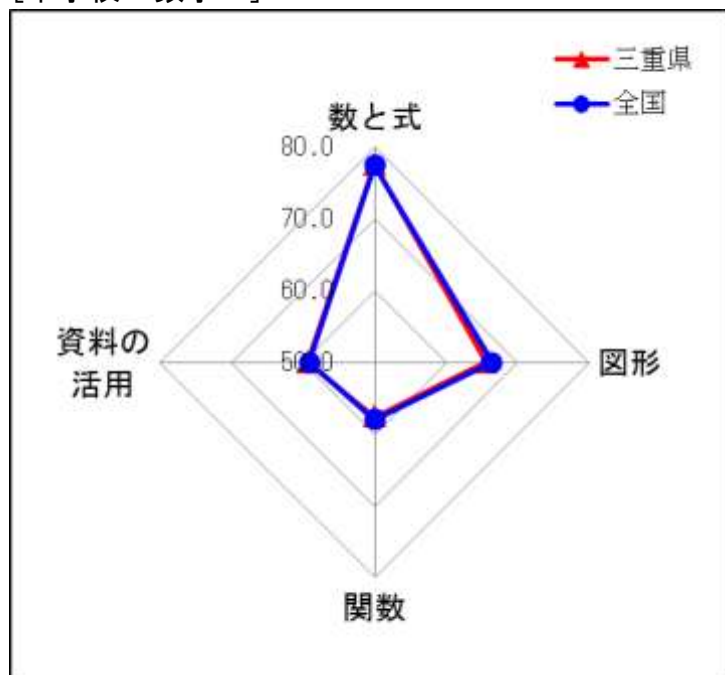
平均正答率	三重県	全国
全体	49.0	51.0
話すこと・聞くこと	—	—
書くこと	38.1	41.0
読むこと	47.0	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.7	56.8

すべての領域で全国の場合より低く、特に、「書くこと」の領域で低い状況にあります。

【考察】

根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があるため、書かれた考えの根拠の妥当性について意見を述べ合うなどの活動を取り入れることが大切です。

[中学校・数学A]



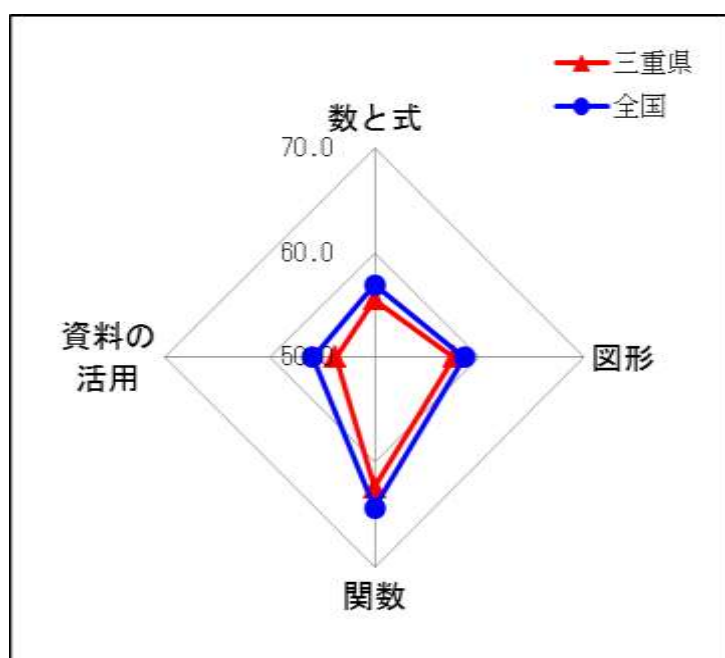
平均正答率	三重県	全国
全体	67.1	67.4
数と式	77.5	77.4
図形	65.6	66.4
関数	57.6	58.0
資料の活用	59.3	59.1

すべての領域で全国の状態とほぼ同程度となっていますが、「数と式」「資料の活用」は全国より若干高い状況にあります。

【考察】

数量や図形に関する基礎的な概念や性質の理解に課題があるため、日常生活と数学とを結び付けて考える学習活動を取り入れることが大切です。

[中学校・数学B]



平均正答率	三重県	全国
全体	58.3	59.8
数と式	55.5	56.9
図形	57.6	58.6
関数	62.4	64.4
資料の活用	53.7	55.9

すべての領域で全国より低い状況にあるものの、ほぼ同程度になっています。

【考察】

理由を説明したり、数学的に説明したりすることに課題があるため、既習の数学的表現を使って考えを説明する場面を多く設定することが大切です。

(5) 三重県における特徴的な傾向

全国と三重県の平均正答率を比較して、その差が±3ポイント以上の主な項目について、以下に示します。

＜小学校・国語A＞における傾向

- ① 習得した漢字を、日常的に文や文章の中で適切に使うことや、漢字を文脈に合わせて正しく書くことに課題があります。(なお、問題12(3)は平成20年度【小学校】国語A¹設問2(2)と同一の問題です。)

・問題12(2)：漢字を正しく書く(勝利をいわう)

平均正答率 56.3% (全国 59.3%)

・問題12(3)：漢字を正しく書く(かぜをよぼうする)

平均正答率 72.4% (全国 77.4%)

- ② 故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表すことに課題があります。

・問題2一：故事成語の意味と使い方を理解する(五十歩百歩)

平均正答率 45.4% (全国 55.8%)

※小学校・国語Aの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

・問題2二：故事成語の意味と使い方を理解する(百聞は一見にしかず)

平均正答率 44.1% (全国 49.9%)

- ③ 物語などの文学的な文章を読むことにおいて、描写の工夫(行動や表情、会話、風景など)の効果を理解することに課題があります。

・問題3：情景描写の効果を捉える 平均正答率 53.5% (全国 58.7%)

- ④ 投書の特徴を理解し、根拠となる事実や資料の使い方など、書き手の工夫を捉えながら投書等の意見文を読むことに課題があります。

・問題4：新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える

平均正答率 66.9% (全国 71.7%)

- ⑤ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、複数の事柄を並列の関係で書くことに課題があります。

・問題6一：複数の事柄を並列の関係で書く(「～たり、・・・たり」という表現)

平均正答率 71.2% (全国 74.9%)

＜小学校・国語Ｂ＞における傾向

- ① 質問の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題があります。

・問題１二：質問の意図を捉える 平均正答率 56.4% （全国 60.2%）

- ② 目的に応じて必要な情報を取り出し、内容を分類したり関係付けたりして整理して読むことに課題があります。

・問題２一：付箋に書かれた内容を関係付けながら最初にもった疑問を捉える
平均正答率 67.6% （全国 71.9%）

・問題２三：課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む
平均正答率 62.3% （全国 66.0%）

- ③ 課題を解決するために、課題に対する解答や結果の予想を立て、どのような方法で必要な情報を収集するとよいかなど、解決のための見通しをもって本や文章を活用することに課題があります。

・問題３三：二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く
平均正答率 43.1% （全国 48.1%）

※小学校・国語Ｂの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

＜小学校・算数Ａ＞における傾向

- ① 日常の場面から、基準量と比較量を捉え、数量の関係（基準量、比較量、割合）を図に表したり、図から読み取ったりすることに課題があります。また、整数の乘法についての理解を基に、小数の乘法の場合も同じように考え、小数倍について理解することに課題があります。

・問題２（１）：割合が１より大きい場合、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解している

平均正答率 68.5% （全国 71.9%）

・問題２（２）：割合が１より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解している

平均正答率 69.2% （全国 72.5%）

・問題４（２）：単位量当たりの大きさの求め方を理解している

平均正答率 55.8% （全国 60.8%）

- ② 作図の操作とその意味を考え、作図は図形の約束や性質に基づいていることを理解することに課題があります。

・問題５（１）：円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる
平均正答率 78.9% （全国 83.9%）

・問題６：作図に用いられている図形の約束や性質を理解している
平均正答率 46.1% （全国 52.0%）

※小学校・算数Ａの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

＜小学校・算数Ｂ＞における傾向

- ① 「数量や図形、数量関係を考察して見いだした事実を確認したり説明したりすること」「問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明すること」「論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすること」に課題があります。

・問題１（２）：示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる 平均正答率 51.0% （全国 55.2%）

※小学校・算数Ｂの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

・問題２（２）：最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる 平均正答率 65.2% （全国 69.1%）

・問題４（１）：繰り返されるリズムの規則性（周期）を見だし、それを基に小節数を求めることができる 平均正答率 58.7% （全国 62.2%）

・問題４（２）：二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる 平均正答率 56.6% （全国 60.5%）

・問題５（２）：示された情報を解釈し、基準量の１．５倍の長さを表している図を選択することができる 平均正答率 43.1% （全国 46.1%）

・問題５（３）：示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる 平均正答率 29.9% （全国 33.0%）

＜中学校・国語Ａ＞における傾向

- ① ２つの資料をもとに、何が足りない情報なのかをつかむことができないという課題があります。

・問題１二：必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す 平均正答率 77.1% （全国 80.3%）

- ② 字形の似ている漢字の意味が理解できず、比較的身近な言葉の漢字を正しく書くことができないという課題があります。

・問題８一（２）：文脈に即して漢字を正しく書く 平均正答率 54.5% （全国 59.5%）

- ③ 文脈に即して漢字を正しく読む力に課題があります。

・問題８二（１）：文脈に即して漢字を正しく読む 平均正答率 71.7% （全国 77.0%）

※中学校・国語Ａの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

・問題８二（２）：文脈に即して漢字を正しく読む 平均正答率 85.0% （全国 88.6%）

＜中学校・国語Ｂ＞における傾向

- ① 作者の意図、表現の工夫やその効果などについて考えたことを、根拠を明確にして書くことに課題があります。このことは、ここ数年の全国的な課題でもあります。

・問題１三：文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く
平均正答率 43.7% （全国 48.2%）

※中学校・国語Ｂの中で、全国の平均正答率との差が最も大きい問題です。

＜中学校・数学Ａ＞における傾向

中学校・数学Ａにおいては、全国の平均正答率と比較して±３ポイント以上の差がある問題はありません。

- ① 関数の意味を理解しているかを問う問題では、平均正答率は34.1%で、全国と比較すると－1.7で、特に、関数の概念を問う問題において十分な理解がなされていない状況にあり、課題があります。

- ② 図形領域については、全国の平均正答率と比較すると低い傾向にあり、特に、問題５（４）の底面が合同で高さが等しい円柱と円すいの体積の関係を問う問題では、38.7%、全国と比較しても－2.6で、授業での観察や実験などの活動を通して理解を深める取組に課題があります。

＜中学校・数学Ｂ＞における傾向

中学校・数学Ｂにおいては、全国の平均正答率と比較して±３ポイント以上の差がある問題はありません。

- ① 数学Ａと比べると無解答率が高く、全国と比較してもその差が数学Ａより開いている状況にあり、知識・技能を活用することに課題があります。

- ② 図形領域の証明については比較的全国との差がないものの、数と式などの説明をする問題では、全国との差が開いている状況にあり、適切な表現を用いて説明することに課題があります。